

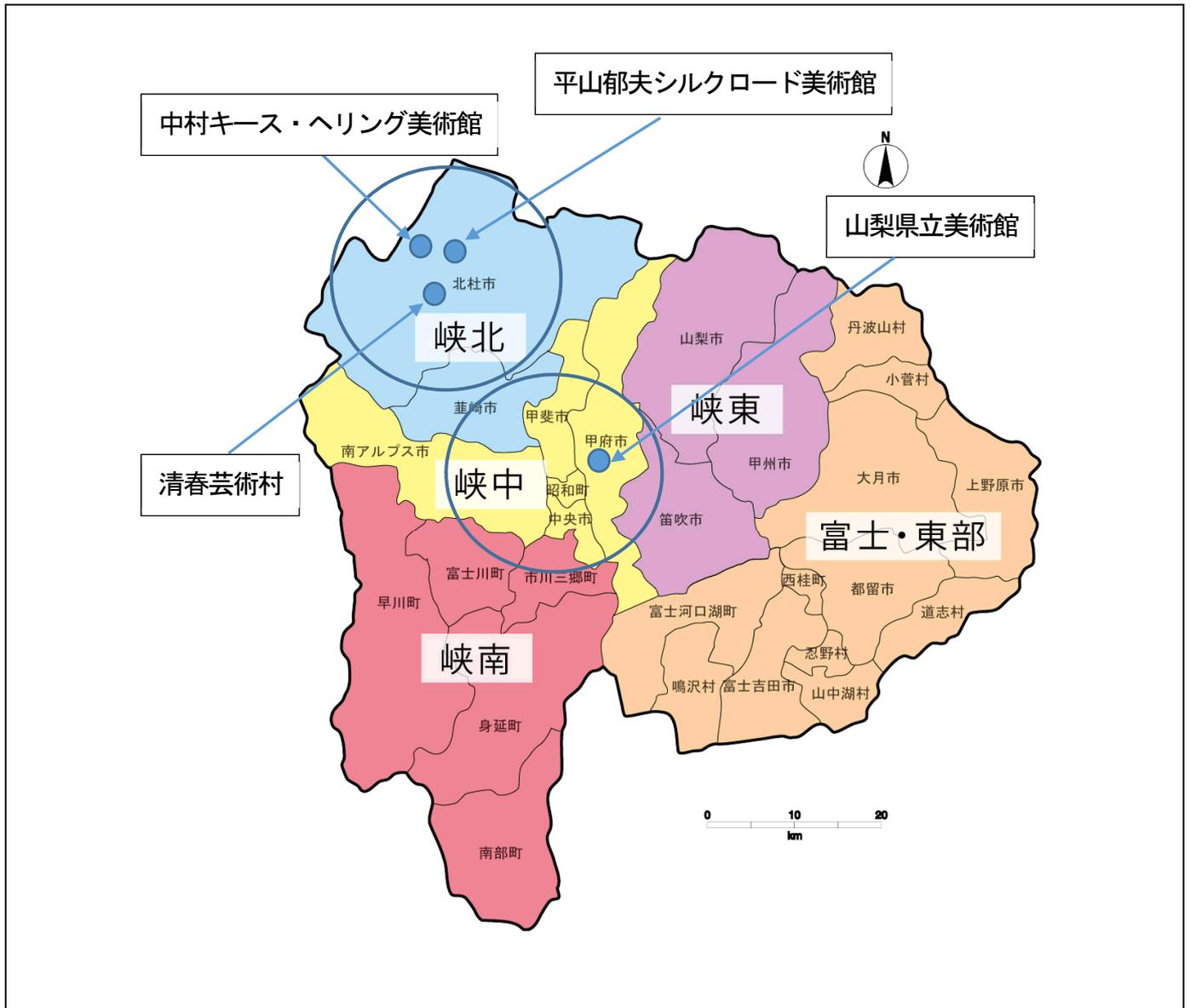
# 山梨県文化観光推進地域計画

## 1. 実施体制

協議会	名称	山梨県文化観光推進協議会		
申請者① 協議会の構成員 である市町村又 は都道府県	名称	山梨県	所在地	山梨県甲府市丸の内1-6-1
	代表者	知事 長崎 幸太郎		
申請者② 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	名称	山梨県立美術館	所在地	山梨県甲府市丸の内1-6-1
	代表者	知事 長崎 幸太郎		
申請者③ 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	名称	株式会社アルテミス	所在地	東京都渋谷区広尾3-8-8
	代表者	代表取締役 中村 健人		
申請者④ 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	名称	公益財団法人清春白樺美 術館	所在地	山梨県北杜市長坂町中丸2072
	代表者	理事長 吉井 仁実		
申請者⑤ 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	名称	平山郁夫シルクロード美 術館	所在地	山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6
	代表者	館長 平山 東子		
申請者⑥ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人ハヶ岳ツー リズムマネジメント	所在地	山梨県北杜市高根町清里3545-4559
	代表者	代表理事 小林 昭治		

申請者⑦ 文化観光推進 事業者	名称	公益財団法人やまなし観 光推進機構	所在地	山梨県甲府市丸の内1-6-1
	代表者	理事長 仲田 道弘		

2. 計画区域



### 3. 中核とする文化観光拠点施設

<p>文化観光拠点 施設名</p>	<p>山梨県立美術館</p>
<p>主要な文化資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然に恵まれた農業県である当県を象徴する、農民画家ミレーや、バルビゾン派を中心とした19世紀フランス絵画</li> <li>・富士山を主題にした絵画など、山梨の風土を背景に生み出された、地域ゆかりの作家・作品</li> <li>・富士山、南アルプス等、甲府を囲む山々を一望することができる、緑豊かな「芸術の森公園」</li> </ul>
<p>主要な文化資源についての 解説・紹介の 状況</p>	<p>文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開館以来、体系的に収集したミレーを中心とするバルビゾン派作品を、ミレー館と称した展示室空間で展示。ミレー館第1室では、19世紀フランスで展開したリアリズムの代表的な画家で、農業従事者など、自然と共に生きる人々の姿をテーマに描き続けた、「ジャン＝フランソワ・ミレーの生涯」をテーマに、画業各期の作品を展観。第2室では、印象派の画家たちに強く影響を与えた、バルビゾン派の画家たちの作品を中心とした風景画を展観。強化すべき点は多いが、ストーリー性のある展示を志向・実施している。（写真①②）</li> </ul> <div data-bbox="371 1216 1121 1776" style="text-align: center;"> </div> <p>（写真①）：ミレー館第1室 展示テーマバナー</p>



(写真②) : ミレーの生涯を視覚的に伝える年表ディスプレイ

- ・山梨ゆかりの作家、作品を季節（3ヶ月）ごとに来館者のニーズを反映させたテーマで分かりやすい解説パネル、キャプションを添えて紹介（写真③④）。



(写真③) : 2020年夏期展示

「山」をテーマにした展示の解説パネルの一部。

絵画に描かれた日本百名山、山梨の名山について、その山にまつわるエピソードと共に紹介。



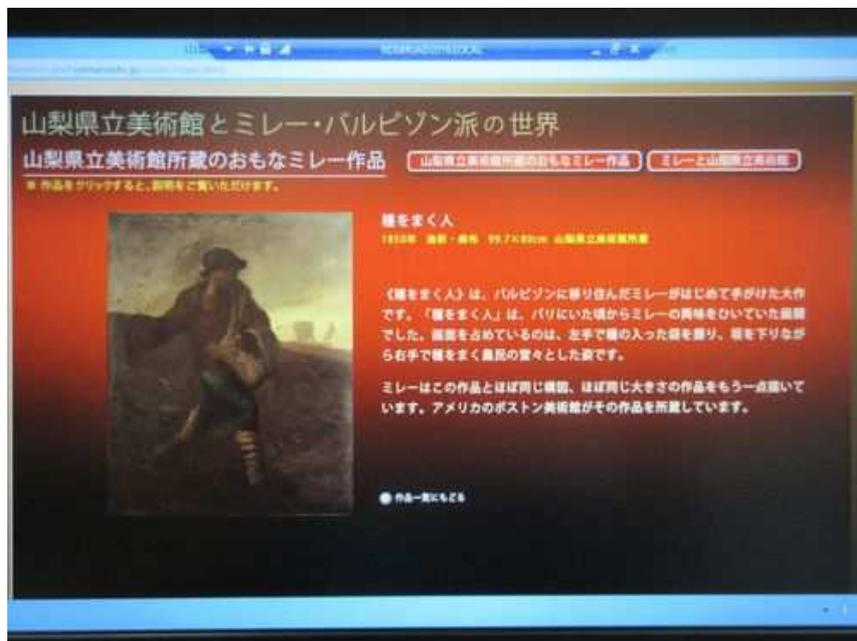
(写真④)：近藤浩一路《覚円山峰》

甲府エリアに位置し、日本遺産でもある景勝地、昇仙峡を描いた作品。

解説パネルでは、作家、作品とともに、昇仙峡にまつわるエピソードを紹介。

情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

- ・HPにおいて主な所蔵品の魅力を解説（写真⑥）。



(写真⑥)



・二カ国（日、英）語解説による『コレクション選』の発行（写真①）。



（写真①）

文化観光推進  
事業者との連  
携の状況

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者

- ・やまなし観光推進機構が発行するパンフレットへの県立美術館情報掲載
- ・甲府市、甲斐市との実行委員会形式による美術館開館40周年事業（平成30年度）

施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者

- ・バス事業者、山梨交通（株）との提携。（作品画像のラッピング路線バスによる宣伝や、展覧会の車内広告掲示協力。）
- ・JR東日本、JR東海との連携。（協働によるキャンペーンの実施や、駅、車内へのポスター掲示。）

文化観光拠点 施設名	平山郁夫シルクロード美術館
主要な文化資源	<p>○文化財保護活動と文化を通じた平和運動に尽力したシルクロードの画家、平山郁夫（1930～2009年）の絵画、およびその制作に関する資料約3000点。 （日本画、素描、下図、スケッチブック600冊、構想図、原稿や草稿、書簡など）</p> <p>○平山郁夫が文化財保護活動で深く関わったシルクロード周辺諸国（主に中国、インド、中央アジア、西アジア）の美術品や、考古資料約10000点。</p> <p>○館のアイデンティティと密接に結びついたトルコ料理レストランASHIHANA</p>
主要な文化資源についての 解説・紹介の 状況	<p>・収集品は、ガンダーラの仏教彫刻やシルクロードで発行されたコイン、ガラス器をはじめ、シルクロード周辺地域、地中海から西アジア、東アジアにおける古代、中世、近世（紀元前5000年頃から20世紀まで）の彫刻、金工品、染織品、装身具類、土器、青銅器、粘土板文書などから構成される。</p> <p>・これだけ大規模なシルクロードの文物コレクションは、世界的に珍しく、学術的にも評価が高く、世界各地の研究者が訪問している。</p> <p>・国内の博物館、美術館のほか、欧米やアジアの博物館（大英博物館、韓国中央博物館など）への貸出も多く、現在、中国（敦煌研究院、北京国家博物館、陝西省歴史博物館等）にて当館のコレクション名品展が巡回中。</p> <p><b>文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）</b></p> <p><b>情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）</b></p> <p>・2017年度よりタッチパネルによる当該文化資源の解説、紹介のための高精細デジタルアーカイブを制作、2階ラウンジ（無料スペース）および、当館ウェブサイトにて公開中（サイト内は多言語化）。現在、作品点数は約300点と代表作のみに限定しているため、今後点数を増やし、更なる多言語化を検討。（2017、18年度文化庁文化芸術振興費「ハヶ岳地域を活性化する美術館活動事業」による）</p> <p><b>(写真①)： デジタルアーカイブとサイトでの公開の一例</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

**外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）**

- ・ 主な館内表示に英語、中国語を併記、パンフレットも英語版、中国語版を作成。2014年度より文化庁補助金により3カ国語による音声ガイド（日、英、中）を設置。
- ・ 作品数が限られているため、今後、対応作品を増やし、音声ガイドより衛生的なQRコードによるスマホ対応の多言語による解説ガイドの導入が望ましいと考えられる。

写真②： 多言語化の例 パンフレット、入口看板、サイト、音声ガイド



**文化観光推進事業者との連携の状況**

**施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者**

- ・ 平成22年4月に観光圏整備法に基づき国土交通省より認定を受けた「八ヶ岳観光圏（DMO法人/北杜市・富士見町・原村の広域連携）」の設立時より、プラットフォームとなる一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントの理事として参画し現在に至る。理事会や定時社員総会だけでなく、各種戦略会議への参加、またDMS（Destination management System）を利用した情報収集・情報交換を行い、地域連携を図っている。

**施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者**

- ・ その他、北杜市観光協会、八ヶ岳ミュージアム協議会、八ヶ岳アート&クラフトネットワーク等に参画し、連携した事業を実施している。

<p>文化観光拠点 施設名</p>	<p>中村キース・ヘリング美術館</p>
<p>主要な文化資源</p>	<p>○20 世紀の現代アートを、多様性や人権啓発などをテーマに切り拓いた米国人作家キース・ヘリング（1958-1990/以下 KH）の作品約 300 点。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・油彩、版画、ポスター、写真、映像など多岐にわたるアジア随一のコレクションを誇る。</li> </ul> <p>○KH は 1980 年代にニューヨークを拠点に世界中で作品を発表し続けたアーティスト。初期に地下鉄で展開した作品により一躍著名人となったことから、ストリートアートを芸術の領域に押し上げたパイオニアとして知られる。1990 年、エイズ合併症により 31 歳で没す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
<p>主要な文化資源についての 解説・紹介の 状況</p>	<p>文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第 1 条第 1 項第 1 号）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・没後 30 年間、欧米を中心に世界各地で大規模な個展が毎年開催されており、近年は KH を含む 1980 年代頃のニューヨークの芸術作品群として再注目されている。このため、国内外から当館を目的に北杜市を訪れる来館者も多い。</li> <li>・KH 作品の特徴として、子どもたちの支援や教育を目的に制作されたもの、人種、宗教、性別など人類の多様性を訴えるもの、エイズ予防啓発を目的とするものなどがあり、芸術活動を通して社会にメッセージを発信し続けた。</li> <li>・当館では KH の遺志を受け継ぎ積極的に社会活動を行なっている。今年で 12 回目となる国際児童絵画コンクールは年々規模を拡大しており、昨年は 13 の国と地域から 1,320 通の応募があった。2018 年にはアートサマーキャンプを実施した他、八ヶ岳の考古文化や日本の伝統芸能である能、ブラインドサッカー体験なども実施した。</li> <li>・その他、HIV・エイズの認知や検査普及に向けては都内の主要な NPO 団体と共同し活動を行なっている。直近では 6 月の HIV 検査普及週間に合わせ、HIV・エイズ講座を SNS のライブ配信で実施（再生回数 2,000 回以上）。LGBTQ の認知、権利獲得に向けては日本各地の関連団体に呼びかけ交流を図り、各地で当館が主体となる</li> </ul>

イベントを行う中で団体の紹介も行っている。また学生団体見学の際には HIV・エイズ、LGBTQ に関する教育普及活動を行っている。

写真 1 : アートサマーキャンプ

(香港の絵画教室の選抜生徒ら約 30 名が 1 週間ほど小淵沢に滞在)



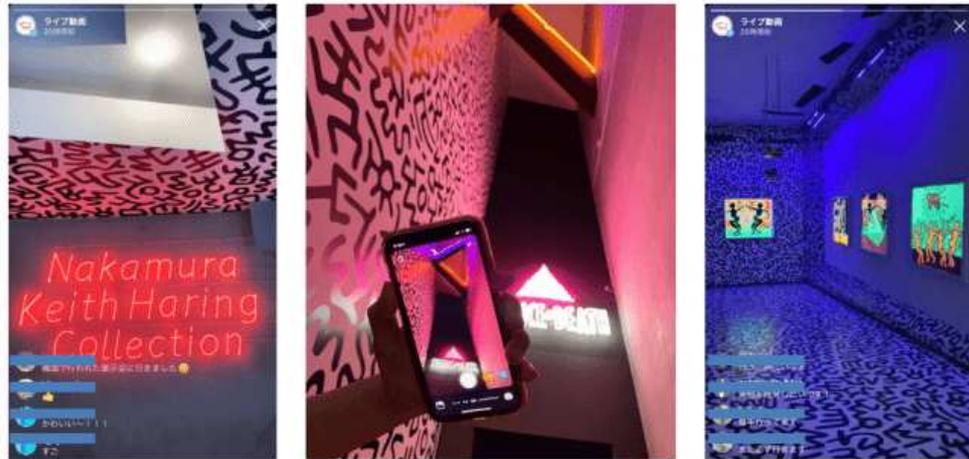
写真 2 : 絵画コンクール授賞式、参加者とアーティストによるワークショップの様子



情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第 1 条第 1 項第 2 号）

- ・当館は SNS 運用によって特に直近 5 年間は集客を伸ばしてきた。中でもインスタグラムは 1.4 万人のフォロワーを抱え、県内の観光・文化施設としては類を見ない。現在は週に一度のライブ配信を実施し作品解説などを行なっている。
- ・今後は SNS、YouTube やその他のウェブコンテンツを拡充させ、展覧会活動、社会活動を通してファン層（≒リピーター）の拡大を図る。

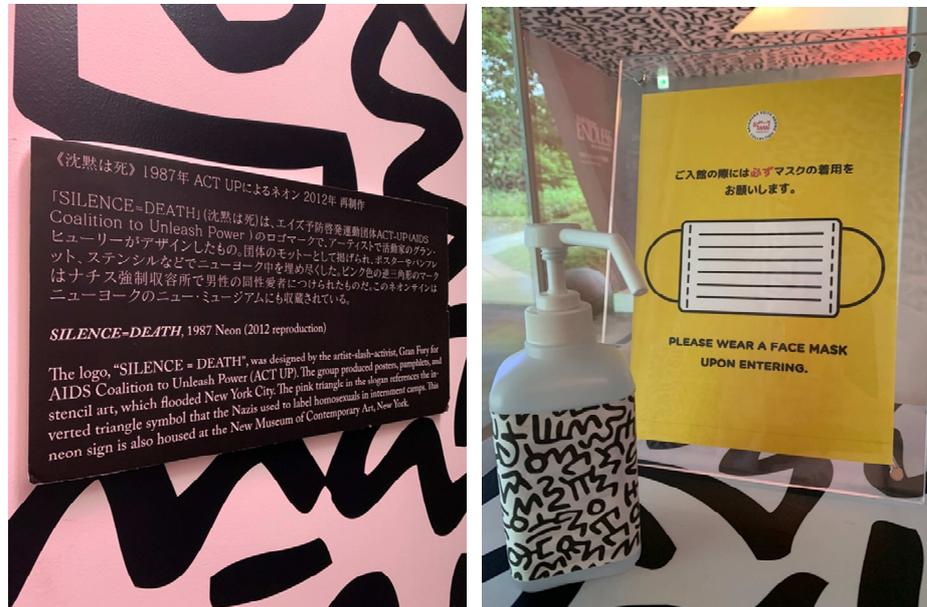
写真3：中村キース・ヘリング美術館のInstagramライブ配信の様子



外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

- ・現在、外国人の来場者数は1割程度にとどまるものの、全てのスタッフは日常会話レベルの英語での対応が可能のほか、ホームページや館内の案内、作品解説は日英2ヶ国語で表記し外国人来館者を意識した対応を行なっている。
- ・今後は中国語、韓国語など多言語対応を図っていく他、多言語での音声機器やタブレットによるガイド、ギャラリートツアー（スタッフによる作品解説）の導入を検討している。

写真4：外国語による館内表示（作品解説、マスク着用案内）



文化観光推進事業者との連携の状況

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者

- ・毎年趣向を変えながらコレクション展を開催しており、その展覧会においては米国大使館、山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会から後援を受けている。また毎年開催する国際児童絵画コンクールにおいても文化庁、山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会から後援を受けている。各事業実施前後には事業概要、実施状況等を取りまとめ報告している。

- ・また 2019 年にはハヶ岳ツーリズムマネジメントとともに外国人を対象としたモニターツアーを実施した。

施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者

- ・県外から多くの来場者が集まるイベントを主催する際は地域の交通事業者、飲食店・販売施設、宿泊施設と密に連絡を取りながら送客するなど、地域の文化観光推進事業者と連携を図りながら事業を実施している。

文化観光拠点 施設名	清春芸術村
主要な文化資源	<p>○梅原龍三郎など、近代・現代の日本の芸術家による作品 761 点、書簡等資料 419 点</p> <p>○ジョルジュ・ルオー、アントニ・クラベなど、近代・現代の海外の芸術家による作品 31 点、書簡等資料 1 点</p> <p>○その他書籍資料 345 点</p> <p>○建築全 7 点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術家たちの共生・創造の場となったアトリエ〈ラ・リューシュ〉(写真①)</li> <li>・白樺派の作家たちの夢を受け継ぎ、白樺派にゆかりのある作家の作品や資料を展示する、谷口吉生の〈清春白樺美術館〉(写真②)</li> <li>・宗教画家ジョルジュ・ルオーの作品に囲まれながら、芸術家の瞑想の場として自然と共生する、谷口吉生の〈ルオー礼拝堂〉(写真③)</li> <li>・陽の動きによって刻一刻と変化していく自然光がテーマの安藤忠雄の〈光の美術館〉</li> <li>・白樺派である梅原龍三郎のアトリエを、清春芸術村の自然のなかに再現している〈梅原龍三郎 アトリエ〉</li> <li>・自然との共生が重要なテーマとなる藤森照信の〈茶室 徹〉(写真⑤)</li> <li>・白樺派の作家による文学作品や美術書を揃える〈白樺図書館〉</li> </ul> <p>○レストラン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の食材や、地元の陶芸家の器を使用した自然に囲まれたレストラン〈ラ・パレット〉(写真④)</li> </ul> <div data-bbox="376 1335 1077 1798" data-label="Image"> </div> <p>写真①〈ラ・リューシュ〉</p>



写真② 〈清春白樺美術館〉



写真③ 〈ルオー礼拝堂〉



写真④ レストラン 〈ラ・パレット〉



写真⑤ : 〈茶室 徹〉

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

- ・ 清春白樺美術館は昭和 61 年登録博物館の認可を受けた、北杜市(旧長坂町)にある清春芸術村の敷地内の美術館。清春白樺美術館は、武者小路実篤、志賀直哉ら「白樺」の同人たちが建設しようとしてその夢を果たし得なかった「幻の美術館」を、両氏を敬愛し、個人的にも関係のあった当財団の関係者が中心となって実現した。「生々した、深い喜びの感じられる、真の大才と一堂に会して敬虔な感じと深い人類的な喜び、愛の感じられる美術館」を理想とし、また、「誰でも直に名画を鑑賞できる美術館」を実現するべく、白樺派を中心とした作家や国内外の近代・現代アーティストの活動および作品を紹介することによって、地域の文化の振興に寄与する。
- ・ 「誰でも直に名画を鑑賞できる美術館」として本当の美術にいつでも触れることのできる鑑賞の場を提供するのみならず、神聖な瞑想と芸術の創造活動についても訪問者に語りかけるといった重要な役割を果たす。20 世紀の宗教画家ジョルジュ・ルオーの代表的な作品も収蔵、展示。またピカソ、ジャコメッティなどの現代の巨匠や、梅原龍三郎、岸田劉生、有島生馬、山脇信徳、椿貞雄、高村光太郎、バーナード・リーチ、豊本憲吉、木村荘八、中川一政、高田博厚ら「白樺」運動に参画した芸術家の諸作品を収集・展示。
- ・ 企画展示室では、随時、主として白樺派に関係のあった芸術家や文人の特別企画展を開催し、油彩、素描、版画、彫刻並びに書や書簡、原稿などを公開して近代日本文化の歩みを明らかにする展示を行うほか、ピカソをはじめとする西欧の巨匠についても、新たな視点から意欲的な展示を行う。
- ・ 広く一般に文化・芸術のもたらす喜びを浸透させるような、アーティスト等の講演会を開催する他、写生大会、造形遊びなど地域社会の方々を対象にして、身近に美術館の魅力を感じられる体験活動の機会を提供。  
参加者へは、無料にて専門家による助言・技術的な指導を行い、館内外の施設を作業スペースとして解放し、活動後には作品を展示。

文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第 1 条第 1 項第 1 号）

- 各 SNS や HP、チラシを通じて清春芸術村の多様な施設の特徴をそれぞれ解説・紹介

[チラシ]



- ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）
- Twitter では、清春白樺美術館の作品について学びのある解説を行う。
- ・Instagram では館内の写真や動画をカメラマンが撮影し、それらを用いた魅力のある投稿を行う。
- ・Google Arts & Culture ではオンライン上で施設や各作品を解説・紹介。

[Twitter]



[Instagram]



kiyoharu.art.colony フォローする

投稿163件 フォロワー2230人 フォロー中NaN人

**清春芸術村**  
 山梨県北杜市清春芸術村の公式アカウントです。  
 An official account of Kiyoharu art colony.  
 安藤忠雄『光の美術館』や谷口吉生『清春白樺美術館』をはじめとした名だたる建築と、白樺派の由緒ある收藏品、そして雄大な自然が一年を通してお楽しみいただけます。  
[www.kiyoharu-art.com](http://www.kiyoharu-art.com)



[Google Arts & Culture]



Google Arts & Culture ホーム トピック 現在地周辺 写真に切り込む

日本のラ・リュージュ

1900年代初期のパリには、有名な2つの著名なラ・リュージュがありました。一つはピカソらが暮らした建築家「ピエール・ラ・リュージュ」そしてもう一つはシャガールがデザインがもたらした「ラ・リュージュ」です。その歴史が、建築家ラ・リュージュ、実は日本にも存在しています。1900年代初期、パリでフランスのラ・リュージュを建てる建築家が紹介されています。



Google Arts & Culture ホーム トピック 現在地周辺 写真に切り込む

パリのモンパルナス地区にある特徴的な11角形の建物。レンガと木、木村から造られた3階建ての建物は、フランス語でラ・リュージュ（蜂の巣）と呼ばれています。

外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

- ・パンフレットのテキスト箇所を英語表記したプリントの配布
- ・HP 内における各施設の紹介やアクセス方法などの英語表記
- ・Google Arts & Culture ではオンライン上で施設や各作品をバイリンガルで解説・紹介

[公式HP]

1

ラ・リュージュ

La Ruche

- ・JR中央本線新宿駅より2時間。長坂駅下車タクシー5分／バス10分／徒歩30分
- ・JR中央本線名古屋駅より3時間40分。小淵沢駅下車タクシー10分／バス30分
- ・中央高速長坂インターチェンジより15分(東京より車で約2時間)

公共交通機関情報(平成28年4月より時刻表内容が変更となりました)  
バス利用の場合

北杜市民バス 北部巡回線

スパテイオ小淵沢～清春芸術村経由～長坂駅・大井ヶ森

最寄駅JR長坂駅発→清春芸術村行 発車時刻 || ①11:18/②15:38

清春芸術村発→長坂駅着 || ①14:15

JR小淵沢駅発→芸術村着(約30分) || ①9:24/②13:49

芸術村発→JR小淵沢駅着(約30分) || ①11:26/②15:46

By Train

From Tokyo : Take JR Line from Shinjuku station for 2 hours to Nagasaka Station.

5 minutes by taxi / 10 minutes by bus / 30 minutes on foot from Nagasaka Station.

From Nagoya : Take JR Line from Nagoya station for 3 hours and 40 minutes to Kobuchizawa Station.

10 minutes by taxi / 30 minutes by bus from Kobuchizawa station.

By Car

Takes 15 minutes from Nagasaka I.C. (About 2 hours from Tokyo).

By Bus

Take Hokuto City Bus (Northern Line) bound for Nagasaka Station / Ooigamori via Spatio Kobuchizawa - Kiyoharu Art Colony.

From JR Nagasaka station to Kiyoharu Art Colony | Departure Time ①11:18 / ②15:38

From Kiyoharu Art Colony to JR Nagasaka station | Departure Time ①14:15

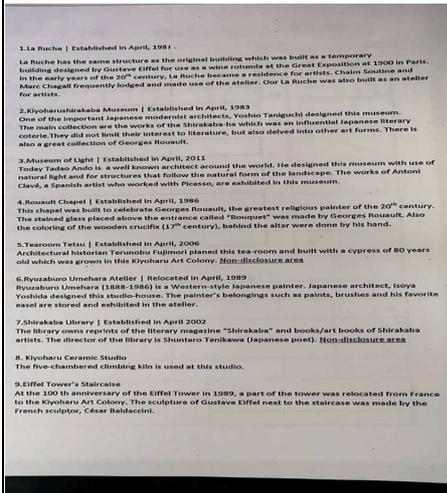
From JR Kobuchizawa station to Kiyoharu Art Colony (Takes about 30 minutes) | Departure Time ①9:24 / ②13:49

From Kiyoharu Art Colony (Takes about 30 minutes) | ①11:26 / ②15:46

若き日のシャガールやモジリアニなど巨匠を生んだアトリエ兼住居として現在もパリの記念建築とされているものと同様のギュスターブ・エッフェルの建築。もとは1900年に開催されたパリ万国博覧会のパビリオンに使用されていたもので、老化により取り壊しが決定された際、吉井長三が買い取り日本に移築しようとしたところ事態は好転。パリでの保存が決定したため、設計図を買いとりまったく同じものを1981年に再現。アーティストのための創作の場「ラ・リュージュ」がパリ以外にもう一つ、ここ清春にも完成しました。

La Ruche has the same structure as the original building which was built as a temporary building designed by Gustave Eiffel for use as a wine rotunda at the Great Exposition of 1900 in Paris. In the early years of 20th century, La Ruche became a residence for artists. Chaim Soutine and Marc Chagall frequently lodged and made use of the atelier. Our La Ruche was also built as an atelier for artists. | Established in April, 1981.

[配布パンフレット 英語版]



文化観光推進  
事業者との連  
携の状況

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者

○ハケ岳ミュージアム協議会

- ・本協議会に参画し、マップの発行や、地域振興を目的とした稲絵アートなどを実施。
- ・清春芸術村は役員（会計・監査）を務める。

○北杜市観光協会

- ・CM やテレビ撮影、桜の名所としての観光などのコーディネートとして、観光協会には仲介として連携している。

## 4. 文化観光の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針

### 4-1. 地域における文化観光を取り巻く現状

#### 4-1-1. 主要な文化資源

本計画では、地域の豊かな「自然」「食」分野の文化資源と、  
下記4つの拠点施設の有する「文化」資源を「主要な文化資源」として位置づける。

#### A: 峡中エリア、峡北エリアの「自然」に関する文化資源（代表的なもの）

##### ○山岳

- ・四方を山に囲まれた山梨県は、世界文化遺産の富士山をはじめ、ユネスコパークに登録された南アルプスや八ヶ岳、奥秩父の山系を擁する山岳県である。南アルプス国立公園、八ヶ岳中信高原国立公園、秩父多摩甲斐国立公園、また、甲武信、南アルプスのユネスコエコパークに指定・設定されている。
- ・古くから信仰の対象であり、宗教と結びついた文化資源である。
- ・登山、ロッククライミング、ハイキングといったアクティビティを提供する観光資源でもある。
- ・山梨県観光資源課では、山梨百名山それぞれの概要、登山ルートの難易度、登山に関する内容や交通手段等の問い合わせ先を収録した『山梨百名山手』を2006年3月に発行している。現在に至るまで、情報やレイアウトを変更し、増刷・配布することで、登山観光情報の提供に務めている。

##### 峡中エリア

###### 「名勝御嶽昇仙峡」(写真①)

- ・甲府市に位置する渓谷で特別名勝に指定されている。また、「日本五大名峡」の一つに数えられる。
- ・近代以降観光化され、その景観は多くの絵画の画題として取り上げられている。
- ・本計画で中核の一つとなる文化観光拠点施設、山梨県立美術館にも昇仙峡を描いた作品が収蔵されている。

###### 「金峰山」(写真②)

- ・修験道の開祖役行者が奈良県吉野から蔵王権現を勧請したとされる信仰の山で、「御岳」と称され、金桜神社をはじめとする信仰遺跡が点在する。
- ・中世以来の山岳信仰の拠点として全国からの登拝者を集め、多くの絵画や旅日記に記録されている。
- ・江戸時代には、多くの文人墨客が来訪し、絵画や旅日記などの記録を遺している。
- ・周辺には複数の「御岳道」があり、現在も様々なルートから登山を楽しむことができる。
- ・山梨と長野を潤す笛吹川、荒川、千曲川は、山頂の五丈岩が源と伝えられている。



写真①：名勝御嶽昇仙峡



写真②：金峰山西稜

### 峡北エリア

#### 「八ヶ岳」(写真③)

- ・日本百名山の一つとして、登山、ロッククライミング、ハイキングのアクティビティで親しまれている。
- ・一体には多くの温泉を有している。
- ・東に位置する清里高原をはじめ、広大な裾野が広がっており、牧場・牧畜や高原野菜の栽培に活用されている。
- ・西南側の裾野一体にかけて、神取遺跡、青木遺跡、天神遺跡、金生遺跡といった縄文時代の遺跡が数多く分布する。



写真③：急峻な地形の南八ヶ岳（権現岳山頂より・右は最高峰の赤岳。）

## 〇水

- ・山梨県は「名水百選」と「平成の名水百選」に7カ所が選出されている名水の産地である。
- ・豊かな水資源は、富士山や八ヶ岳、南アルプス、奥秩父などの山々から生み出される。
- ・日本のミネラルウォーター発祥の地で、日本一の生産量を誇る。
- ・川や湖や渓谷など、水が創り出す自然景観は、重要な観光資源となっている。
- ・山梨県森林環境部森林環境総務課では、特設ホームページを設け、水についての情報発信を行っている。  
県内の水に関する知識、文化、産業、名水スポット情報など、情報を発信している。

### 峡中エリア

#### 「荒川」「能泉湖」(写真④)「荒川ダム」「御嶽昇仙峡水源の森」

- ・富士川水系の河川である荒川は、甲府市街を流下し、その景観を特徴づけている。
- ・上流部の急な河川勾配は、「昇仙峡」の絶景を作り出し、観光地として親しまれてきた。
- ・上流部に建設された荒川ダムとダム湖である「能泉湖」周辺には、御嶽昇仙峡水源の森と名付けられた森林が広がっており、「水源の森百選」に選出されている美しい景観を呈する。
- ・近年「ダム巡り」の流行もあり、荒川ダム自体も文化観光資源として、多くの人々を集めている。

### 峡北エリア

#### 「八ヶ岳南麓高原湧水群」

- ・山梨県北杜市長坂町と、小淵沢町に点在する湧水群。
- ・権現岳水源林の水や、八ヶ岳南麓に降り注ぐ雨水が地下水として火山岩を浸透し、湧き出すことで形成される。
- ・大小数多く存在する湧水地は、近隣の村落の歴史や文化と密接に結びついたものとして、公園として整備され、生活利用されるほか、名水を使用したワイン、ウイスキー、そば等製品の原料としても活用されている。

#### 「三分一湧水」(写真⑤)

- ・本地域計画で中核の一つとなる文化観光拠点施設、平山郁夫シルクロード美術館から徒歩一分の距離に位置する。
- ・日本水百選に指定された湧水。
- ・戦国時代の頃、水争いをしていた三つの村に等配分するため、武田信玄が堰を築いたという伝説が残っている。
- ・八ヶ岳の懐から一日に約8500トンもの水を湧出し、夏でも清涼感を味わえる名所。
- ・隣接する三分一湧水館では、湧水の仕組みや水質、また民話や歴史を紹介している。



写真④：能泉湖



写真⑤：三分一湧水

## ○温泉

- ・4つの大陸プレートがひしめき合うユニークな地学的特質から、多数の温泉地が分布している。  
(泉温25℃以上、泉源二カ所以上の温泉地の数は、30に登る。)
- ・泉質についても、10存在する内の9つが県内に分布しており、その多様性は全国でも有数のものである。
- ・海拔100mから1400mの地点まで、大きな標高差にまたがって温泉地が分布している。  
四方を風光明媚な山々に囲まれ、露天風呂からは富士山や南アルプス、個性あふれる溪谷美など、様々な景観を楽しむことができる。
- ・甲府市においては、街の銭湯の多くが温泉を活用している、「温泉銭湯」であり、気軽な温泉体験を提供する観光文化資源となっている。
- ・本地域計画に関連する主要な温泉地としては、峡中エリアの湯村温泉群、積翠寺温泉群、峡北エリアの増富温泉群などがある。
- ・公益財団法人やまなし観光推進機構では、2019年2月に『やまなし立ち寄り百名湯手帳』を発行し、「温泉王国やまなし」の魅力を発信に務めている。

### 峡中エリア

#### 「湯村温泉」(写真⑥)

- ・古くは湯島温泉と呼ばれ、行基伝説が残る、歴史ある温泉。
- ・一帯には、多くの文化財を伝える塩沢寺や古墳があり、背後にある湯村山の登山ルートも整備されている。
- ・江戸時代中期には、領主柳澤吉里が庶民のための浴場を整備するなど、庶民のための湯治場としての歴史も長く、浴場の様子を北斎が作品に絵が描いている。また、太宰治ゆかりの温泉としても人気を集めている。
- ・温泉宿のひとつ、常磐ホテルは、囲碁や将棋の公式選の場、また海外の日本庭園専門誌で上位ランキングを獲得し続ける回遊式庭園があることでも知られている。

### 峡北エリア

#### 「増富ラジウム温泉」(写真⑦)

- ・武田信玄が金山開発中に発見した隠し湯として伝えられる。
- ・日本では珍しいラジウム泉質で、効能を求めて多くの湯治客が訪れる。
- ・本地域計画中、八ヶ岳南麓を中心とした峡北エリアの中核のとなる文化観光拠点施設から、自家用車で40分ほどの場所に位置する。
- ・金峰山や瑞牆山を望む景観が魅力となっている。
- ・廃校となった「旧増富中学校」を活用し、「ますとみやまアート」が2年に1度開催されている。



(写真⑥)：湯村温泉 常磐ホテル



(写真⑦)：増富ラジウム温泉 不老閣

## B: 峡中エリア、峡北エリアの「食」に関する文化資源（代表的なもの）

### ○ワイン（写真⑧）

- ・81ものワイナリーが県内に点在する。日本固有種の甲州ぶどう、マスカット・ベリーAの他、外国品種の栽培・生産も行っている。
- ・ワインの生産量日本一（シェア31.3パーセント）を誇る。  
（※平成31年2月国税庁発表「国内製造ワインの概況（平成29年度調査分）」）
- ・ワイナリーの大半は峡東エリアに分布しているが、峡中エリアの甲府市には4つ、峡北エリアの北杜市には3つのワイナリーがある。（※山梨県ワイン酒造組合ホームページを参照。）
- ・平成25年には、日本で初めて、ぶどう酒（ワイン）における地理的表示（「山梨」）が国税庁告示により指定された。これにより、海外において「地理的表示付きワイン」としての流通が可能となり、山梨県産ワインのブランド力が高まった。
- ・エリア内の多くのレストランで、県産ワインの提供を行っている。ぶどうの品種、生産地、醸造技術などの違いによって生み出される、多種多様な味わいを楽しむことができる。



写真⑧：世界のワイン市場の中心地、ロンドンでの県産ワインプロモーション活動の様子

### ○山の幸（写真⑨、⑩）

- ・山岳・森林に恵まれる当県では、シカやイノシシといった動物の狩猟が盛に行われている。
- ・狩猟によって食材として捕獲された野生の鳥獣、所謂ジビエを提供する飲食店が峡中、峡北エリアに数多く存在する。
- ・このほか、きのこや山菜取りに関する体験プログラムも盛んに開催されている。
- ・山梨県の豊かな自然を体感することができる文化観光資源となっている。



（写真⑨）：峡中エリアのレストランで提供されるジビエ



（写真⑩）：峡北エリアのレストランで提供されるきのこ

### ○果樹栽培、観光農園（写真⑪）

- ・山梨県では多くの果物が作られており、特に「ぶどう」「もも」「すもも」は国内最大の収穫量を誇っている。
- ・果物を使ったスイーツやジュースなど、地域の特色あるメニューを提供するカフェやレストランが県内に数多くある。
- ・春には桃などの花が一斉に咲き、地域ならではの魅力ある景観を呈する。
- ・近年では国内はもとより、海外にも輸出され、人気を博している。



写真⑪：桃の花咲く新府桃源郷（峡北エリア）

## C：中核となる文化観光拠点施設が所蔵する文化資源

### G-1：県立美術館を中心とした峡中エリア

#### ●山梨県立美術館

#### ○自然・農をテーマとしたミレー、バルビゾン派の19世紀フランス絵画

- ・油彩42点／版画89点／パステル1点
- ・主要作品：ジャン＝フランソワ・ミレー《種をまく人》(写真①)、《落ち穂拾い、夏》(写真②)
- ・1978年の開館から現在に至るまで、ミレー、バルビゾン派を中心に、西洋の風景画の系譜をたどることができるコレクションを形成。
- ・充実した質・量の西洋美術作品を常設展示として鑑賞することができる美術館として、日本でも稀有な存在である。
- ・ミレー、バルビゾン派の画家たちは、モダンアートの文脈において、前衛的な絵画表現の源流とされる「印象派」に影響を与えた画家たちである。
- ・ミレーの作品数は、世界でも有数の規模である。
- ・また、ミレーの代表作を収蔵しており、高いコレクションの質を有する。
- ・コレクションに対する国際的な認知は、美術館業界内では高く、オランダのゴッホ美術館をはじめ、海外の主要な展覧会からの作品出品オファーを受け、出品を重ねてきた。
- ・自然・農をテーマとした作品群のため、「食」など、他分野のテーマと結びつけた鑑賞プログラムを展開しやすい。
- ・また、ジャン＝フランソワ・ミレーは、コレラの流行するパリを避け、家族とともにバルビゾン村へ移住した。  
都市ではなく、自然豊かな「郊外」の生活、というキーワードでも鑑賞可能である。



(写真①)：ミレーの代表作《種をまく人》

パリ郊外のバルビゾン村に移住し、完成させた最初の大作。画家ミレーの評価が高まるきっかけとなった、初期の代表作。

画家ゴッホは本作品に強いインスピレーションを受け、度々同じ主題の絵画を描くなど、近代絵画史において重要な役割を果たした。



(写真②) :

ミレーの代表作《落ち穂拾い、夏》  
人と自然の関わりをテーマに描き続けた画家ミレーの作品の中でも、広く一般に知られる作品。

落ち穂を拾う 3 人の女性の姿を描いた油彩画は、世界でもパリのオルセー美術館と、山梨県立美術館にのみ所蔵されている。

### ○山梨ゆかりの作家による作品、山梨ゆかりの主題の作品

- ・ 日本画 464 点／洋画 345 点／版画 2,765 点／工芸 62 点／彫刻 7 点
- ・ 主要作品：望月春江《惜春》(写真③)
- ・ 内容：山梨出身の近代日本画家を代表する望月春江の晩年の大作



(写真③)

### ○山々に囲まれた甲府ならではの景観を呈する「芸術の森公園」

- ・ 富士山、南アルプス等、甲府を囲む山々を一望することができる。
- ・ 6ヘクタールの敷地内に、公園内彫刻計 15 点が配される。
- ・ 主要作品：
  - オーギュスト・ロダン《クロードロラン》
  - ヘンリー・ムーア《四つに分かれた横たわる人体》

オシップ・ザッキン《ゴッホ記念像》

岡本太郎《樹人》

- ・収集の核であるバルビゾン派にゆかりある「バルビゾンの森」を迫体験できるように芸術の森公園を憩いの場として整備（写真④）。

ミレーら画家たちが、森林環境保護運動に参加した功績をたたえる

レリーフが配される。当レリーフは、画家たちが制作の拠点とした芸術家村「バルビゾン村」と山梨県の交流の印として、同地に設置されるレリーフを複製し、設置されたものである。

- ・富士山、南アルプスなど、甲府を囲む日本有数の高さを誇る山々を、園内から望むことができる。（写真⑤）
- ・バラ園や日本庭園、牡丹園、葡萄棚など、豊かな植栽が四季折々の表情を見せる。地域住民の憩いの場であり、来館者のミュージアムにおける包括的な「美的体験」の重要な資源となっている。



（写真④）：バルビゾン派を代表する画家の、自然保護活動をたたえ、制作されたレリーフ。バルビゾン村との交流の証として設置された。



（写真⑤）：芸術の森公園内から望む富士山。

このほか、南アルプスの山々をはじめ、日本有数の山岳風景を展望することができる。甲府盆地ならではの景観を見ることができる。

## C-2：ハケ岳南麓を中心とした峡北エリア

### ●平山郁夫シルクロード美術館

日本を代表する日本画家平山郁夫の絵画作品及びシルクロードの美術品約1万点を有する平山郁夫シルクロード美術館が位置する。2004年の開館以降、年に2～3回の企画展を中心に作品を鑑賞することができる美術館として、高い注目を集める。絵画及びコレクションに対する国際的な評価は高く、近年では中国、フランス、トルコ、アメリカ等から依頼を受け展覧会を開催してきた。特に中国における貸出依頼は数年に渡り続いている。

### ○平山郁夫 絵画

- ・本画：190点／素描：700点／大下図：320点／
- ・スケッチブック：630点／下図：約1160点
- ・主要作品：《シルクロードを行くキャラバン 西・月》(写真①)  
《パルミラ遺跡を行く・夜》、《小泉富士》(写真②)



(写真①)

- ・内容：日本画家・平山郁夫の晩年期の絵画作品を中心に収蔵している。画家の制作資料を段階的に追いながら鑑賞することができ、「日本画」の制作技法を知ることができる。



(写真②)

### ○シルクロードコレクション

- ・コレクション点数：約10000点。
- ・ガンダーラ：約7000点／コイン：約2000点／古代ガラス／約800点／考古資料：約200点
- ・主要作品：《仏陀坐像》(写真③)

- ・内容：日本画家・平山郁夫とその妻である美知子が収集し、寄贈されたシルクロードに関するコレクション。その内容はガンダーラの仏教彫刻をはじめ、シルクロードで発行されたコイン、古代ガラス器など、シルクロード周辺地域、地中海から西アジア、東アジアにおける古代、中世、近世の彫刻、金工品、染織品、装身具類、土器、青銅器、粘土板文書などから構成される。シルクロードに関わる全ての分野、地域、時代に及んでいる。



(写真③)

## ●中村キース・ヘリング美術館

○20 世紀の現代アートを、多様性や人権啓発などをテーマに切り拓いた米国人作家キース・ヘリング (1958-1990/以下 KH) の作品約 300 点

- ・油彩、版画、ポスター、写真、映像など多岐にわたるアジア随一のコレクションを誇る。
- ・毎年趣向を変えながらコレクション展を開催するほか国内、海外でもコレクション展を開催。現代アーティストを紹介する企画展や絵画コンクールなどの教育普及活動、社会活動も積極的に行う。



写真①:「希望の展示室」



写真②ソウルで開催したコレクション展(2018年/約3ヶ月で20万人を動員)

## ●清春芸術村

○梅原龍三郎など、近代・現代の日本の芸術家による作品 761 点、書簡等資料 419 点

○ジョルジュ・ルオー、アントニ・クラベ（写真②）など、近代・現代の海外の芸術家による 作品 31 点、書簡等資料 1 点

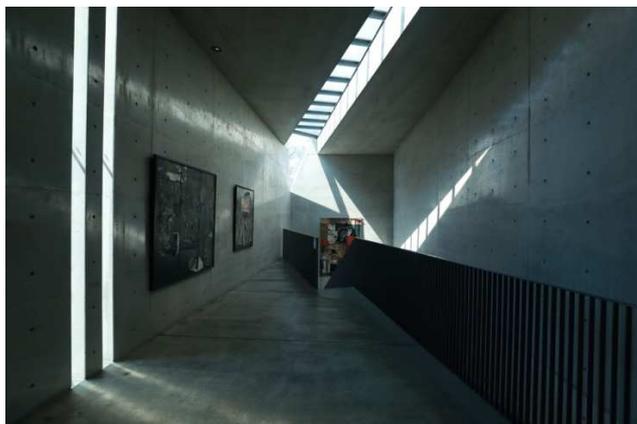
○その他書籍資料 345 点

○建築全 7 点

- ・ 芸術家たちの共生・創造の場となったアトリエ〈ラ・リュージュ〉
- ・ 自然との共生が重要なテーマとなる藤森照信の〈茶室 徹〉
- ・ 陽の動きによって刻一刻と変化していく自然光がテーマの安藤忠雄の〈光の美術館〉（写真①）
- ・ 宗教画家ジョルジュ・ルオーの作品に囲まれながら、芸術家の瞑想の場として自然と共生する谷口吉生の〈ルオー礼拝堂〉（写真③）
- ・ 白樺派の作家たちの夢を受け継ぎ、白樺派にゆかりのある作家の作品や資料を展示する、谷口吉生の〈清春白樺美術館〉
- ・ 白樺派である梅原龍三郎のアトリエを、清春芸術村の自然のなかに再現している〈梅原龍三郎 アトリエ〉
- ・ 白樺派の作家による文学作品や美術書を揃える〈白樺図書館〉



写真①：安藤忠雄《光の美術館》



写真②アントニ・クラベ作品展示風景



写真③：ジョルジュ・ルオー作品展示風景

## 4-1-2. 観光客の動向

### 来訪者数と訪日外国人旅行者数

#### ●県立美術館を中心とした峡中エリア

○【峡中圏域観光客数（R1）】（令和元年 山梨県観光入込客統計 調査結果）

- ・観光入込客数 約496万人（内外国人推計約28万人）
- ・推計宿泊客数 約121万人（内外国人約9万人）

#### ●八ヶ岳南麓を中心とした峡北エリア

○【峡北圏域観光客数（R1）】（令和元年 山梨県観光入込客統計 調査結果）

- ・観光入込客数 約402万人（内外国人推計約23万人）
- ・推計宿泊客数 約85万人（内外国人約3万人）

#### ●山梨県全体

○【山梨県全域観光客数（R1）】（令和元年 山梨県観光入込客統計 調査結果）

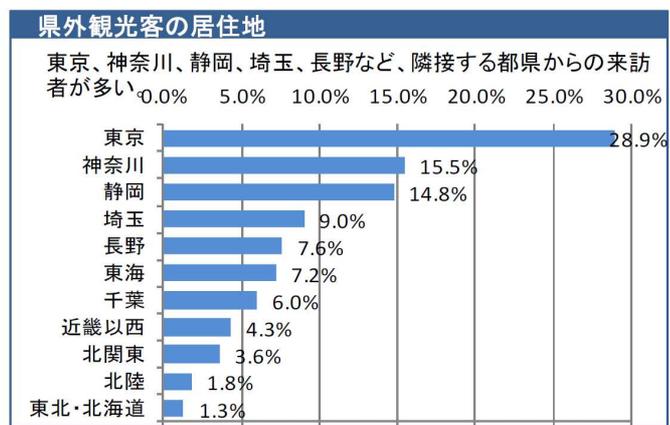
- ・観光入込客数 約3,465万人（内外国人約195万人）
- ・推計宿泊客数 約887万人（内外国人約162万人）

### 旅行者の属性・動向

○本県の外国人延べ宿泊者の国別割合（R1）（令和元年 山梨県観光入込客統計 調査結果）

- ・中国 45.7% 台湾 14.3% タイ 8.6% 香港 6.8% ベトナム 4.5%

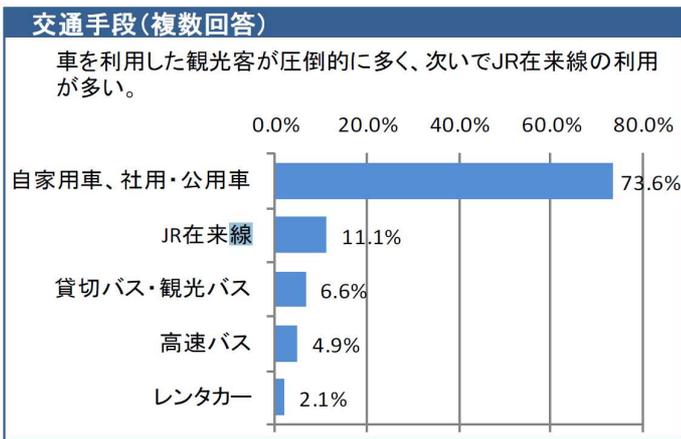
○本県の県外客居住地（令和元年 山梨県観光入込客統計 調査結果）



→ 首都圏を中心とする隣県からの来訪が大多数を占める。

= 同対象に対して、地域内の観光体験の質を高めることが課題となる。

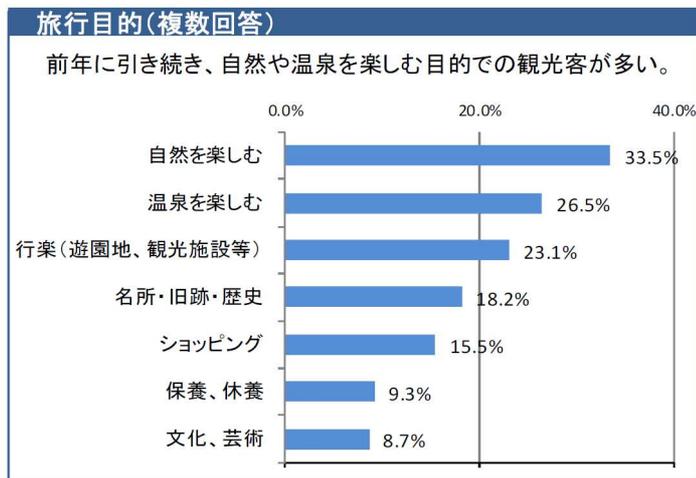
○交通手段（令和元年 山梨県観光入込客統計 調査結果）



→自家用車で訪来が圧倒的多数を占める。

＝二次交通の整備が課題。

○旅行目的（令和元年 山梨県観光入込客統計 調査結果）



→文化・芸術を目的とする観光の割合は、非常に低い。

＝自然、文化、芸術を結びつけた文化観光プログラム強化の必要性

### 4-1-3. 他の地域との比較

#### ○他の地域

##### 富士山周辺エリア

- 【富士・東部圏域観光客数（R1）】（令和元年 山梨県観光入込客統計 調査結果）
  - ・観光入込客数 約 1782 万人（内外国人推計約 100 万人）
  - ・推計宿泊客数 約 500 万人（内外国人約 132 万人）  
（県内で最も多くの海外、国内の観光客・宿泊者を集める。）
- 2013 年に、富士山が「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」として世界文化遺産に登録された。
- 外国人観光客が巡る広域観光周遊ルートの中でも、新幹線や東名道で京都と東京を結ぶゴールデンルートの一環として、訪日客の人気を集めている。
- 富士山世界遺産センターをはじめ多くの文化施設でキャッシュレス決済の導入が進み、外国人観光客の利便性は高まっている。
- 多言語対応の状況について、HP はもとより、パンフレット、マップ、細やかな案内に至るまで、充実している。
- 都内からの高速バスのほか、富士急行線河口湖駅からの路線バスなど、二次交通も充実している。

##### 山梨県峡東エリア

- 【峡東圏域観光客数（R1）】（令和元年 山梨県観光入込客統計 調査結果）
  - ・観光入込客数 約 542 万人（内外国人推計約 31 万人）
  - ・推計宿泊客数 約 159 万人（内外国人約 18 万人）  
（県内で 2 番目に多くの海外、国内の観光客・宿泊者を集める。）
- 奈良時代時代から始まったとされる葡萄栽培や、明治期以来のワイン醸造に関する技術や文化、またその歴史を物語る建造物が「葡萄畑が織りなす風景」として日本遺産に認定されている。
- 昨今は、国際ワインコンクールにおいて高い評価を獲得し、積極的な PR 活動の効果もあり、国際的な認知度が高まっている。
- 果樹栽培も盛んであり、観光農園として首都圏を中心に、観光客を集めている。
- 地域の「文化」、「自然」「食」をトータルで体感できる機会として、2008 年より「ワインツーリズム」が開催されて、数多くの参加者を集める。地域を巡り、葡萄畑の観察や生産者との交流を通して文化に親しみ、ワインを 5 感で味わうイベントであり、「文化」「自然」「食」分野が総合された、魅力ある文化観光プログラムの先進例として高く評価されている。

## ○本計画の対象地域

### 県立美術館を中心とした峡中エリア

#### ●強み

- ・世界有数のミレーコレクションを有する山梨県立美術館が位置する。
- ・県庁所在地であり、甲府駅を中心とする徒歩圏内に、郷土料理やジビエ、地域産野菜を提供するレストラン、個性的な商店が数多く立地する。
- ・主要駅からの路線バスにより、県立美術館の他、日本遺産でもある景勝地「昇仙峡」をはじめとする自然観光体験へも近接している。
- ・甲府駅、隣の酒折駅から徒歩圏内に、ワイナリーが立地する。
- ・戦国武将として知名度の高い、武田信玄ゆかりの地であり、甲府駅から武田神社などの文化資源へのアクセスも容易。
- ・県内の中心に位置し、富士山や河口湖を有する富士・東部エリア、清里などのリゾート地を有する峡北エリア、葡萄畑やワイナリーが多い峡東エリアにそれぞれ近接している。

#### ●弱み

- ・過去には、観光バスによる団体ツアー客を多く集めたが、近年は旅行の趣向が変わり、こうしたツアー客は減少傾向にある。高度に文脈化された魅力的なプログラムが打ち出せていないことが要因だと考えられる。
- ・所蔵するミレーコレクションは、国内外の専門家から高い知名度を誇る一方、一般的な特に国内の若い世代の認知度は低い。また国外からの誘客について積極的なPR活動が行われておらず、コレクションの価値が観光資源としての価値に結びついていない。
- ・観光推進団体との連携が不十分であり、現在の観光客の趣向に沿った魅力的な文化資源鑑賞プログラムの開発・提供ができていない。
- ・最寄り駅である甲府駅からは、バスが利用可能であるが、案内表示など、路線、時刻表、乗り継ぎ等、利用に必要な情報の取得が煩雑であり、観光推進の障壁となっている。
- ・近隣の豊かな自然を主目的に来訪した観光客を取り込むようなプログラムの充実や、PRが十分に実施できていない。
- ・甲府駅徒歩圏に地域の魅力を伝えるレストランが数多くあるにもかかわらず、連携した文化観光プログラムは乏しく、またPRも不十分である。

## 八ヶ岳南麓を中心とした峡北エリア

### ●強み

- ・日本百名山の一つである八ヶ岳の南西麓に位置し、豊かな自然環境と長い日照時間、夏季は冷涼、八ヶ岳や南アルプスの眺望、富士山が遠望される優れた景観を有している。
- ・また、標高差が1,000mにもなる変化のある地形のため、約30分以内の移動で花や紅葉の時期のずれや農産物の収穫時期や種類の違い等にも変化が見られる他、牧場、水源、温泉も数多く存在し、観光資源として、豊かな自然に恵まれている。
- ・八ヶ岳を中心とした中部高地は、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」として認定されている。梅之木遺跡や金生遺跡などの集落跡が史跡として指定されている。これらの史跡にはミュージアムも設置されており、出土した土器や土偶が展示されている。太古からの変わらぬ雄大な景観の中、今につながる縄文人の世界に思いを馳せ、日本文化の源流を体感することができる文化資源となっている。
- ・首都圏からのアクセスの良さと自然環境の良さのバランスが取れているため、団塊の世代のリタイアと共に始まった近年の移住ブームにあって、さらに人気は高まっている。外部からの新たな住民は、地域内の観光需要増のポテンシャルと見ることができる。
- ・本計画地域の八ヶ岳南麓、西麓エリア（山梨県北杜市）は、長野県富士見町、原村と共に「八ヶ岳観光圏整備推進協議会」を立ち上げ、平成22年4月に観光圏整備法に基づく「八ヶ岳観光圏」として国土交通省から認定され、長期滞在型の観光施策に取り組んでいる。
- ・八ヶ岳高原には、個性的なミュージアムが多い。八ヶ岳ミュージアム協議会加盟の美術館・博物館は、28館に及び、それぞれが多種・多様な文化資源を所蔵している。
- ・特に平山郁夫シルクロード美術館は、中国の人々に人気の高い、中国を含むシルクロード一帯に関連する古美術品約1万点を所蔵している。  
近年では、コレクションの中国巡回展を定期的開催し、数多くの来訪者を集めている。  
(2019年に中国河南省の洛陽市博物館で開催された展覧会には、36万人もの観覧者を記録している。)

### ●弱み

- ・自家用車ではなく、電車で訪れる観光客は、JR中央本線の小淵沢駅（特急停車）、及び同駅で乗り換え可能なJR小海線の甲斐小泉駅、甲斐大泉駅、清里駅を利用する。  
しかしながら、小海線は運行本数が少なく、旅行者の自由な行動を制限している。  
また、各駅からエリア内の観光地への二次交通インフラが極端に弱く、観光推進の大きな障壁となっている。
- ・中核となる文化観光拠点施設となる美術館の一般的な認知度は、県内のほかの主要な観光地と比べ、向上の余地がある。
- ・近隣の豊かな自然や温泉といった文化資源を目的に来訪した観光客を取り込むようなプログラムの充実や、そのPRが十分に実施できていない。

## 4-2. 課題

### ○ターゲット

- ・国内旅行者
  - 地域内、県内に居住する人々
  - 首都圏を中心とする近県からの来訪者
  - 「自然」「温泉」といった文化資源を目当てに山梨県を訪れる来訪者
  - 従来の来客層である美術愛好家
  - 美術、美術館への潜在的な興味が高い若年層
- ・訪日外国人
  - ゴールデンルートの通過点としてのみ、両エリアを訪れる外国人観光客
  - その中でも数が突出して多い、中国からの来訪者
  - 自然愛好、ミレー作品、ワイン文化という点で親和性の高いヨーロッパ、特にフランスからの来訪

### ●課題1：文化観光拠点施設自体の魅力増進

- ・「自然」を主目的とした旅行者に対して、「文化・芸術」を目的とした来訪者が少ない。
- ・中核となる文化観光拠点施設の文化的な体験を主な目的とした来訪者を増加させる必要がある。
- ・外国人、若年層向けのコンテンツ開発（動画、アニメーション、鑑賞プログラム）により、あらたな来館者層を開拓する必要がある。
- ・中核拠点となる文化観光拠点施設が所蔵する優れた文化資源の価値・魅力を伝えるプログラムを充実させるとともに、施設での体験を質の高い「美的体験」として提供するため、展示室のみならず、レストラン、ショップ、周辺環境等、施設における体験全般を洗練する必要がある。

### ●課題2：他分野との連携強化による地域観光の魅力の創造・発信

- ・中核拠点となる文化観光拠点施設を基点に、地域の魅力ある文化資源に触れるような観光モデルを創出するため、施設のアイデンティティを強化する範囲で、他の文化資源の情報の集積・コンテンツ化・発信の役割を担う必要がある。
- ・従来文化施設が提供していた「文化」に関するコンテンツのみならず、周辺の豊かな「自然」、またそれをダイレクトに体感できる「食」といった、他分野の豊かな文化資源の魅力を総合的に体感できる観光体験を創出する必要がある。
- ・農業生産者や、ワイン醸造家、温泉文化の専門家など、地域の魅力の担い手と密接な連携体制を構築し、従来の観光プログラムとは異なる、文化観光拠点施設ならではの文化観光プログラムを創出する必要がある。

### ●課題3：国内外からの来訪者の利便性増進

- ・自家用車利用者が圧倒的多数を占める状況にあって、新たな来訪者増のためには、電車を利用した来訪者の利便性に資する主要駅からの二次交通を強化する必要がある。
- ・来訪者が、中核拠点となる文化観光拠点施設と地域の文化観光を行い、「美的体験」を得るのに必要な情報を簡便に得られるよう、拠点施設のHP、また観光情報プラットフォーム等、情報サービスを構築する必要がある。

- ・訪日外国人の利便性を高めるため、入館料の支払い、展示解説、館内案内、地域マップ等を多言語で整備する必要がある。

#### ●課題4：国内外での広報強化

- ・文化観光拠点施設自体の魅力、またそれらを起点とした地域内の文化観光の魅力について、認知度を高める必要がある。
- ・従来の文化資源享受層への取り組みを強化する一方で、特に、当該地域の文化観光拠点施設への関心が比較的低い国内の若年層、また中国を中心とした海外からの観光客に対する広報活動を、強化する必要がある。

#### 4-3. 文化観光拠点施設を中核とした文化観光の総合的かつ一体的な推進のため取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

##### ●計画全体の方針

- ・地域の資源となる「文化」「自然」「食」を総合的に体感できる文化観光体験を当地域の特色として推進する。
- ・それを通して、「Well-being」（健康、共生、幸福 etc.）の価値、つまりは、一人ひとりが豊かさを実感することができる地域を目指す。
- ・結果として、地域内、首都圏を中心とする国内、そして中国を中心とした海外旅行者の来訪増を実現し、観光振興と地域・文化発展の好循環を創出する。

- ・本地域計画では、峡中エリアの山梨県立美術館、峡北エリアの平山郁夫シルクロード美術館、中村キースヘリング美術館、清春芸術村を拠点とし、「自然」「食」分野の文化観光資源を活用した文化観光推進を目指す。
- ・拠点施設4館を設定し、それぞれの個性が地域の「自然」「食」分野の資源と結びつくことで、質の高いプログラムを生み出すことを目指す。県立美術館と私立美術館という官民の多様性を確保しながら、多様性ある地域の魅力創造・発信を実現する。
- ・各館の連携プログラムの実現については、質の向上や広範囲への普及など、必要に応じて検討・実施していくことを目指す。
- ・また、本地域計画は、峡中エリア、峡北エリアという離れた2地域で実施することで、最終的に山梨県全体の文化観光の推進を目指すものである。
- ・各エリアで中核館がそれぞれの個性的を活かした魅力的コンテンツやプログラムを開発し、インターネットで繋ぐことにより、距離を克服しながら事業を展開することを目指す。将来的には、山梨県内だけでなく、日本、世界の関連文化資源と繋がりながら、優れたコンテンツを創造・発信することを目指す。

## ●本計画で強化・実施する取り組み

(※取り組みの番号は、課題の番号と一致。)

### 1. 中核施設の魅力増進

事業例：

- 文化財保存と、文化施設の「美的体験」提供を両立するために必要な施設改修の実施
- 「ストーリー」（文化資源の意義）を体感できる展示のデザイン・実現
- 施設環境(周辺の自然環境、レストラン、ショップ等)のコンテンツ強化
- 新たなニーズに対応する鑑賞等プログラムの充実、ツアー等での提供経路の充実
- 文化資源のデジタル化、コンテンツ開発による、資源の保存と活用の両立
- VR, AR 等、先端技術を活用したコンテンツ開発
- 現代美術のアーティストとの協働による文化観光拠点施設、また文化資源のアイデンティティ強化
- 文化資源や施設のアイデンティティを高め、魅力を伝える動画、アニメ等の制作

### 2. 資源（文化、自然、食）間の有機的な連携の実現

事業例：

- 山梨県の豊かな「文化」「自然」「食」を総合した、「Well-being」体感プログラムの開催
- 異なる文化資源の担い手（団体、企業、個人）の相互理解の促進・連携事業の開発・実施

### 3. 交通アクセス等、来館利便性の向上

事業例：

- レンタルバイク等、Uber、自動運転など、主要駅から文化観光拠点施設への新たな交通手段の検討・実現
- キャッシュレス決済の導入による海外旅行客の利便性向上
- 展示等コンテンツ、ウェブ等情報発信の多言語化

### 4. 情報発信力の強化

事業例：

- HP、SNS を活用した、「美的体験」の入り口となるような情報発信
- 海外での情報発信強化(海外での広報活動展開)

## 5. 目標

5-1. 本計画で達成する目標							
指 標	実績値		目標				
		R 1年	R 2年	R 3年	R 4年	R 5年	R 6年
① 来訪者の満足度（日本人） 単位：パーセント	峡中	28.4	29.7	31.0	32.3	33.6	35.0
	峡北	38.4	40.3	42.2	44.1	46.0	48.0
(指標の把握方法) 「山梨県観光入込客統計調査報告書」における、山梨県の満足度（圏域）における、「非常に満足」の比率							
② 来訪者の満足度（外国人） 単位：パーセント	峡中	28.4	29.7	31.0	32.3	33.6	35.0
	峡北	38.4	40.3	42.2	44.1	46.0	48.0
(指標の把握方法) 「山梨県観光入込客統計調査報告書」における、山梨県の満足度（圏域）における、「非常に満足」の比率							
③ 来訪者数（日本人） 単位：千人	峡中	4,683	2,342	3,101	3,860	4,619	5,380
	峡北	3,793	1,897	2,512	3,127	3,742	4,360
(指標の把握方法) 「山梨県観光入込客統計調査報告書」における、圏域別観光入込客からの推計 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、当面の間は来訪者数が少ないことを想定							
④ 来訪者数（外国人） 単位：千人	峡中	279	28	101	174	247	320
	峡北	226	23	82	141	200	260
(指標の把握方法) 「山梨県観光入込客統計調査報告書」における、圏域別観光入込客からの推計 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、当面の間は来訪者数が少ないことを想定							
(10年後の目標値及び計画期間中の目標値との関係) 10年後には2倍を目標とするが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した上で5年間の目標を設定し、その後の5年間でより目標値に向けて取り組む。							
⑤ 来訪者の文化・歴史の満足度 単位：パーセント	峡中	36.3	38.0	39.7	41.4	43.1	45.0
	峡北	29.5	31.0	32.5	34.0	35.5	37.0
(指標の把握方法) 「山梨県観光入込客統計調査報告書」における、山梨県の文化・歴史の満足度（圏域）における、「非常に満足」の比率							

⑥訪日外国人宿泊客一人あたり平均消費額 単位：円		12,795	13,576	14,357	15,138	15,919	16,700
<p>(指標の把握方法)</p> <p>「山梨県観光入込客統計調査報告書」における、訪日外国人宿泊客観光消費額単価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画では、富士・東部エリアに大きく偏っている外国人観光客について、峡中、峡北エリアでの集客増を目指すことが目標の一つとなっている。</li> <li>・これらのエリアにも外国人観光客の宿泊がみられるが、現在では京都など関西、富士山、東京を結ぶルート中、単なる宿泊地として利用されるにとどまっている。</li> <li>・本計画では、目標の達成のステップとして、館の磨き上げや、魅力的なプログラムの開発を行い、国内客への文化観光を促進した先に、訪日客によるアクセス（利便性）向上を計ることが想定されている。</li> <li>・訪日外国人の消費額を本計画の目標として設定し、その増加を目指すことは、域内の外国人観光客が滞在のみならず、様々な観光を行ったことの指標としてみるができると考えられるため、このような目標設定を行った。</li> </ul>							

## 5-2. 目標の達成状況の評価

「山梨県観光入込客統計調査報告書」を基にした目標値の達成状況評価を実施するとともに、市町村など関係機関と事業の改善方策を検討するなど、必要に応じて事業の内容や実施方法について、見直しを実施する。

- ・計画の進捗管理は、山梨県文化観光推進協議会が実施することから、その構成員である、やまなし観光推進機構及びハケ岳ツーリズムマネジメントも関わることになる。
- ・本計画の目標は、山梨県観光入込客統計調査報告書をもって評価していくが、そのデータは内容的に、ハケ岳ツーリズムマネジメントが収集・分析している内容と連動するものである。
- ・両文化観光推進事業者が感じている課題の共有、所持するデータの活用、事業の検討、事業の効果測定、事業の評価及び改善方策といった内容について、協議会の場で検討することを通して、文化観光推進事業者との協働をおこなう。
- ・また、本計画は文化観光推進事業者のみならず、市町村との連携により、実効力のある事業実施を志すものである。

## 6. 地域文化観光推進事業

### 6-1. 事業の内容

#### 6-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	【文化資源デジタル化・コンテンツ開発事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化資源のデジタル化、コンテンツ開発を行うことで、文化資源の魅力発信の基盤を形成する。</li> <li>・歴史的な価値等、特に重要な文化資源のデジタル化については、VR制作やクローン文化財制作等、将来的な活用に資することのできる高いレベルを追求する。</li> <li>・文化資源のデジタルデータ、またアーカイブを基に、動画やVRなどのコンテンツの開発、ならびに地域計画に関わるテーマ「文化」「自然」「食」「Well-being」に関わるコンテンツを開発、制作する。</li> <li>・各文化観光拠点施設の所蔵品データベースの構築、およびデータやコンテンツを提供するホームページ整備、コンテンツへのアクセスに係わる体制作りにについても、本事業により実施する。</li> <li>・これらの事業により、文化資源としての美術作品、魅力や役割等についての情報発信及び先端的な展示を実現する。</li> <li>・成果であるデータは、更なる文化観光資源の魅力形成・増進を図る事業展開の原資とする。 また、高精細画像自体を、パブリックドメインとして公開し、国内外の個人、美術館、研究者、組織、団体が共有できる文化資産として活用される状況を実現する。</li> </ul>
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化観光拠点施設4館で実施予定。</li> </ul> <p>但し、高度なデジタルデータ化については、文化資源の歴史的価値と、活用方法を考慮し、検討・実施。</p>
実施時期	R2～R6 年度
継続見込	<p>継続見込：5年間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の内、特に文化資源のデジタル化、コンテンツ開発、情報公開については、本計画終了後も継続して取り組む。</li> </ul> <p>予算見込：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各館予算、関係する補助金</li> </ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品デジタルデータ制作</li> <li>・作品データアーカイブ制作</li> <li>・動画等デジタルコンテンツ制作</li> <li>・クローン文化財等コンテンツ制作</li> </ul>
関連目標	4-3-1, 5-1-①～⑥

(事業番号 1-②)

事業名	【展示の魅力増進事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・文化観光拠点施設において、各館の主要な文化資源や、地域計画のテーマやキーワードと合致する特別展、イベント、ワークショップ事業等の実施。</li><li>・所蔵する主要な文化資源（作品）の常設展において、作家や作品のストーリーを魅力的に伝えるために必要な解説や、ディスプレイの実施についても、本事業に含める。</li><li>・文化観光拠点施設の連携による、展覧会、イベント、ワークショップ等の実施。</li><li>・展示の魅力を高めるのみではなく、関連するイベントやワークショップ等、総合的な楽しみ方を提供することで、文化観光拠点施設における体験の魅力を増進させることを目的とする。</li><li>・施設、所蔵作品を中核とする各館のアイデンティティ増強と、地域計画のテーマや意義を広範に普及させ、地域に賑わいをもたらす。</li></ul>
実施主体	・文化観光拠点施設 4 館で実施。 館の規模や予算等の観点で検討し、実施時期をずらして実施を検討。
実施時期	R2～R6 年度
継続見込	継続見込：5 年間 ・展示内容の更新に応じて、本計画終了後も適宜取り組む。  予算見込： ・各館予算、関係する補助金
アウトプット目標	・特別展、常設展、関連イベント、ワークショップの実施 ・所蔵する主要な文化資源（作品）の常設展の美的・内容的に優れた展示の実現
関連目標	4-3-1, 5-1-①～⑤

事業名	【作品鑑賞プログラム魅力増進事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでがアプローチできていなかった個人、企業、団体等の関心を引き起こすため、当地域計画の文化観光拠点施設の有する文化資源や、地域にある文化資源を活用した、実施する対象のニーズに即した、魅力的なプログラムを新たに開発、実施する。また、既存のプログラムの強化によりその実現を行う。</li> <li>・ その際特に、本地域計画が重要視する「文化」「自然」「食」のキーワード、それらの総合により体现される「Well-being」のテーマに関連するプログラム内容の開発・実施を行う。</li> <li>・ 新たな鑑賞活動の創出を目的として、認知症、発達障害等、特性を有する鑑賞者を対象とした、心身のケアや創造力を豊かにする効果が期待できる対話型芸術鑑賞やワークショップ、またそこに山梨の自然や食文化の体験を加えた美術鑑賞プログラムの企画・運営について、取り組みを強化する。</li> <li>・ また、地域内外の企業で、本地域計画が重要視する「文化」「自然」「食」のキーワード、それらの総合により体现される「Well-being」のテーマに関連する企業をターゲットにしたプログラム開発、コミュニケーション、お互いに利益のある協働について、取り組みを強化する。</li> <li>・ 開発されたイベントやワークショップ等プログラムについては、来訪者だけでなく、美術館に来ることのできない人々に向けた配信を検討・実施する。海外、県外、子育て中、療養中などで美術館に来館することができない人や、感染症予防で参加者を制限しなくてはならない状況に対応することで、新しい意味での「開かれた美術館」を目指す。</li> <li>・ 本プログラムを旅行会社や観光、飲食店と連携した企画立案を行い、3-④事業において活用することができる。</li> </ul>
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「文化」「自然」「食」に関わるプログラム開発と、旅行会社や文化観光推進事業者、飲食店との連携については、文化観光拠点施設 4 館で実施。</li> <li>・ 認知症、発達障害等、特性を有する鑑賞者を対象としたプログラムや、企業をターゲットにしたプログラム開発については、山梨県立美術館が中心となって開発・実施を進め、各館での展開も視野に入れている。</li> </ul>
実施時期	R2～R6 年度
継続見込	<p>継続見込：5 年間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画終了後については、本計画で獲得した、個人、企業、団体との繋がりを核に、より一層の連携を目指す。</li> </ul> <p>予算見込：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各館予算、関係する補助金、企業等からの寄付金等外部資金</li> </ul>
アウトプット目標	<p>○ 「文化」「自然」「食」のキーワード、それらの総合により体现される「Well-being」のテーマに関連する以下のような鑑賞プログラムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業のアイデンティティに配慮した鑑賞プログラム</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・障がい者向け鑑賞プログラム</li><li>・認知症ケア鑑賞プログラム</li><li>・院内学級向け鑑賞プログラム</li></ul> ○上記プログラムのオンライン実施
関連目標	4-3-1, 5-1-①~⑤

(事業番号 1-④)

事業名	【アーティストとの連携強化による魅力的なプロジェクト開発事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・現代美術作家と協働し、文化観光拠点施設のアイデンティティと、山梨県の魅力ある文化資源に関連する制作・発表(作品設置、空間創出、web 公開)を行う。</li><li>・優れた現代美術作家をアートディレクターに迎え、プロジェクトを実施することで、アーティストの視点で地域の多様な文化資源の魅力を掘り起こし、成果物である作品を発表する機会を創出する。これにより、アーティストの活躍の場を創出するとともに、アーティストと来館者のコミュニケーションの場を創出する。</li><li>・発表の場は、文化観光拠点施設周辺に限らず、広く地域内において実施することで、地域の活性化につなげる。</li><li>・県内で活動実績のあるアーティスト・イン・レジデンスとの協働も、視野に入れる。</li><li>・事業番号 3-③の地域の産業や食文化を紹介するイベントと連携し、美術と美術館周辺地域の新たな魅力の発信、受容層の新規開発とともに、山梨の産業、食文化などを幅広く紹介する機会を創出する。</li></ul>
実施主体	当初は、山梨県立美術館が中心となって事業実施。 5年間の地域計画の中で、峡北エリアにおける展開を計画。
実施時期	山梨県立美術館はR2年度から開始、他の文化観光拠点施設は、実施・開始時期を検討。
継続見込	継続見込：R2～R6年度 <ul style="list-style-type: none"><li>・アーティストとの協働は、本計画終了後も継続して実施を検討。</li><li>・実施規模等詳細は、本計画終了時の状況次第で検討。 (アートディレクターとの関係性、予算確保など。)</li></ul> 予算見込： <ul style="list-style-type: none"><li>・各館予算、関係する補助金、企業等からの寄付金等外部資金</li></ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・アートディレクターの事業への参画</li><li>・現代美術作家による作品制作・設置</li><li>・作品のWeb公開等、デジタルコンテンツ化</li><li>・作品設置による空間の変容、また空間を活用したイベント</li></ul>
関連目標	4-3-1, 5-1-①～⑤

(事業番号 1-⑤)

事業名	【館のアイデンティティ・地域の自然コンテクストを背景とした食コンテンツ開発事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・文化観光拠点施設の文化資源への理解促進、興味向上、そして館のアイデンティティや豊かな自然環境を体感する方法として、それらと密接に結びつく「食」に関するコンテンツを開発し、提供を行うことで、文化観光拠点施設の文化観光的な魅力を増進する。</li><li>・收藏される文化資源の文化的な背景や、地域の自然環境と密接に結びついたメニュー開発、シェフ、ソムリエ等有識者を招いての体感プログラム・イベントの開発・実施を行う。</li><li>・芸術鑑賞と食を結びつけた鑑賞プログラムの開発、実施。</li><li>・本事業を通して、文化観光拠点施設の魅力を向上させるのみならず、地域内の「自然」「食」に関わる企業、有識者との連携を強化し、鑑賞等と結びついた新たなプログラムを開発することを目指す。</li><li>・また、美術、農業、醸造、調理等、「文化」「自然」「食」を通じた「Well-being」を体感できる文化観光スタイルの創出を目指す。</li></ul>
実施主体	文化観光拠点施設 4 館で実施を計画。
実施時期	継続見込 : R3~R6 年度 <ul style="list-style-type: none"><li>・館における鑑賞プログラムは継続的に実施。</li><li>・メニュー開発や体感イベントについては、本計画中に収益性を高め、継続を目指す。</li></ul> 予算見込 : <ul style="list-style-type: none"><li>・各館予算、利用者からの収入</li></ul>
継続見込	4 年間
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・新規メニュー開発・提供</li><li>・文化資源（作品）の鑑賞と、高度に文脈化された「食」を結びつけたイベント等、体験プログラムの実施</li></ul>
関連目標	4-3-2, 5-1-①~⑥

(事業番号 1-⑥)

事業名	【施設・周辺環境（自然）の情報コンテンツ化事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・中核拠点文化施設の敷地、庭園、温泉、水源、森林、山岳等周辺自然環境のうち、歴史的、地理的、文化的に重要なものについて、地域計画における文化資源と位置づけ、その魅力を掘り起こし、発信するとともに、美術館活動の素材として活用する。</li><li>・自然環境の由来やそれを生かしたアクティビティなど、環境にまつわる情報を掘り起こし、蓄積・公開する。</li><li>・また、文化観光拠点施設が所蔵する文化財、施設のアイデンティティ、そして提供プログラムと関連性を考慮しながら、コンテンツ開発をおこなう。具体的には、QRコードを活用した案内標識、観光案内印刷物、ウェブを活用した情報提供方法等。</li><li>・文化観光拠点施設を取り巻く豊かな「自然」を、文化観光拠点施設の活動につなげ、文化観光的な魅力を増進する体験を提供することを目的とする。</li><li>・また、館のアイデンティティと関係する範囲内で、周辺の自然環境の魅力を伝える指導者やボランティアなどの人材育成も視野に入れる。</li><li>・これらの事業を遂行するため、周辺環境の整備（5-③の事業）が必要となる。</li></ul>
実施主体	文化観光拠点施設 4 館を核に、文化観光推進事業者（やまなし観光推進機構、八ヶ岳ツーリズムマネジメント）と連携しながら実施をしていく。 計画 5 年の中では、峡中エリアにおいては甲府市、峡北エリアにおいては北杜市との連携を視野に入れる。
実施時期	R3～R6 年度
継続見込	継続見込：4 年間 <ul style="list-style-type: none"><li>・本計画終了後も、情報化について継続することで、資源を増やすとともに、コンテンツのデザイン刷新、ボランティア組織の発展を目指す。</li><li>・「自然」に関する事業として、外部からの寄付・協賛など、幅広い主体が関わるようなモデル形成を目指す。</li></ul> 予算見込： <ul style="list-style-type: none"><li>・各館予算、関係する補助金、企業等からの寄付金等外部資金</li></ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・各文化観光拠点施設周辺の自然環境に関する情報収集・蓄積</li><li>・印刷物、QRコード等を活用した情報提供の実現</li><li>・各文化観光拠点施設周辺の自然環境に関する解説、動画等、文化観光拠点施設の魅力向上に資するコンテンツ</li><li>・本事業の担い手となるボランティア等、人的資源の確保、組織体制の確立</li></ul>
関連目標	4-3-1, 5-1-①～⑤

6-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号 2-①)

事業名	【情報技術を活用した利便性向上・データ収集事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内、国内、そして中国を中心とした国外からの来訪者が、施設内のサービスやコンテンツ、プログラムにアクセスする際の利便性を高める。</li>   <li>・具体的には、下記について検討・実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>-Wi-Fi 環境の整備</li> <li>-キャッシュレス決済システム</li> <li>-時間制入場システム</li> </ul> </li>   <li>・これらを実現すると同時に、情報技術を活用した入館者デモグラフィック、並びに動向データ収集の方法を確立し、来訪者増に向け、動向の分析体制の確立を目指す。</li> </ul>
実施主体	<p>文化観光拠点施設 4 館で実施予定。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、主に国内旅行客の利便性に資する事業を 5 年間の前半で、主に海外旅行客の利便性に資する事業を後半で行うことを計画している。</p>
実施時期	R2 年度～R6 年度
継続見込	<p>継続見込：5 年間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画終了後も、技術革新、社会状況に対応して、より良い状況を検討・実施していく。</li> <li>・本計画でデータ収集・活用の方法を確立し、より緻密なPDCAサイクルを実現し、継続していく。</li> </ul> <p>予算見込：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各館予算、関係する補助金</li> </ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業にふさわしいコンテンツ提供の観点で必要な、施設内 Wi-Fi 環境の整備（通信速度や、Wi-Fi アクセス可能となる規模については、今後のコンテンツ開発の計画に照らして検討される。）</li>   <li>・文化観光拠点施設全館でのキャッシュレス決済システム導入</li>   <li>・必要と判断される館や、展覧会の機会において、時間制入場システムの導入</li> </ul>
関連目標	4-3-3, 5-1-①～④, ⑥

(事業番号 2-②)

事業名	【多言語情報提供事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・外国人の来訪者の利便性向上のため、文化観光拠点施設と周辺自然環境の案内、解説、鑑賞プログラム等の多言語化を行う。</li><li>・地域に多く居住する在日外国人に対する利用促進に資する取り組みについても、本事業に含める。(中国語、タイ語、ポルトガル語を母国語とする人々が多い。)</li><li>・特に近年インバウンド拡大の動向に合わせた中国などアジア、山梨におけるオリパラのキャンプ地利用の多いフランスなどを優先的に行う。</li></ul>
実施主体	文化観光拠点施設 4 館で実施予定。 地域に多く居住する在日外国人向けの取り組みを先行し、インバウンド拡大を目指した対応は、5 年間のうちの後半で行うことを計画している。
実施時期	R2 年度～R6 年度
継続見込	継続見込： <ul style="list-style-type: none"><li>・各館のコアな解説やプログラムから多言語対応に着手し、本計画終了後も継続して幅を広げていくことを目指す。</li><li>・対応言語については、ニーズの状況を見ながら適宜追加・対応していく。</li><li>・館近隣に居住する在日外国人とのコミュニケーションについても、あり方を模索し、発展させていくことを目指す。</li></ul> 予算見込： <ul style="list-style-type: none"><li>・各館予算、関係する補助金</li></ul>
アウトプット目標	既存の作品解説、鑑賞プログラムの多言語化
関連目標	4-3-3, 5-1-②, ④, ⑥

事業番号 2-③)

事業名	【施設と交通拠点間の交通インフラ整備・情報提供経路構築】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拠点施設を中核とした文化クラスターを形成するため、鉄道、バス、レンタルサイクル、タクシー等、公共性の高い交通機関をスムーズに利用できる状況の実現を目指す。</li> <li>・ 特に、文化観光拠点施設周辺の自然環境へのアクセスをシームレスに実現する、電動レンタルサイクルのサービス実施と、その広範囲での運用を目指す。</li> <li>・ また、イベントへのアクセスの容易さを高めるダイレクトバスの実施や、ニーズに応じて、周遊バスの実施を検討する。</li> <li>・ 標示等案内整備や、マップ、周辺観光情報へのアクセスを容易にするアプリの開発を通して、拠点施設以外の文化、自然、食に関する情報を提供し、地域の活性化を目指す。</li> <li>・ MaaS の提供や、その他先進的な交通手段について、の検討・実施。</li> </ul>
実施主体	<p>山梨県と文化観光推進事業者が中心となっておこなう。          実施に当たっては、文化観光拠点施設 4 館と連携を行う。</p>
実施時期	R2 年度～R6 年度
継続見込	<p>継続見込：5 年間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本計画で峡北、峡中とエリア内の利便性向上を実現した後、更なる充実や、エリア拡大を視野に入れ、継続を検討。</li> <li>・ スタートアップの時期を経て、利用者収入をベースに、自治体や文化観光推進事業者による自律した運営へと軌道にのせ、継続を目指す。</li> <li>・ MaaS や自動運転技術の導入など、革新的な技術の実験を継続して行っていく。実用導入を目指し、導入後も継続的に利便性の向上に努めていく。</li> </ul> <p>予算見込：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治体予算（要合意形成）、関係する補助金、関連する企業からの協賛等外部資金、利用者からの収入。</li> </ul>
アウトプット目標	・ (二次) 交通システムの運用実験・検討・実現
関連目標	4-3-3, 5-1-①～④, ⑥

6-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との連携の促進に関する事業

(事業番号3-①)

事業名	【美術館と地域の未来を描き、共有する事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館と地域が文化観光を推進するための、めざすべき未来像や役割、使命について、さらにそれらを実現するための方向性や方策等について、地域の人々や企業等と共に考える機会と場を創出する。</li> <li>・地域と美術館、アートプロジェクトの関わりについて、国内外で先進的な活動や取り組みをしている美術館や地域活動の調査を行う。</li> <li>・それら先進例の実施者や、関係者を招聘してのシンポジウムやワークショップ、研修会を開催する。</li> <li>・事業の成果については、印刷物、ウェブ媒体を利用して、地域の内外へと発信・蓄積する。</li> <li>・地域住民の文化観光推進や文化施設活動への興味関心を高め、理解と協力を獲得し、地域が一体となった文化観光振興の意識を醸成することを目的とする。</li> <li>・その成果が、文化施設の将来のリニューアルや機能拡張、新たな事業に活用できるような好循環をつくりだす。</li> <li>・美術館のリニューアルや、その際に新たに担うべき機能拡張について検討を重ね、地域にユニークな文化観光推進のあり方を模索する。</li> </ul>
実施主体	山梨県と山梨県立美術館が中心となっていく。
実施時期	R2 年度～R6 年度
継続見込	<p>継続見込：5年間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画終了後も、利用者のニーズや、社会状況による要請を絶えず美術館の事業に取り込むため、美術館と地域の対話の場として、必要に応じて継続を検討。</li> </ul> <p>予算見込：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体予算（要合意形成）、関係する補助金、関連する企業からの協賛等外部資金、利用者からの収入。</li> </ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的な美術館、アートプロジェクトの調査、関係者への聞き取り</li> <li>・シンポジウムの開催（年に一回程度。）</li> <li>・報告書の出版、ウェブによる配信</li> </ul>
関連目標	4-3-1, 5-1-⑤

(事業番号3-②)

事業名	【ミュージアムショップを起点とした地域の魅力発信事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・文化施設や地域の魅力や特性をアピールする商品の販売、新たな商品の開発を行う。</li><li>・美的、デザイン的に質が高く、地域計画の「文化」「自然」「食」「Well-being」のテーマと符合する内容の商品を扱うことで、文化施設における「美的体験」の一部となることを目指す。</li><li>・また、地域の魅力に関する商品について、その作り手や、商品を生み出した地域性に関する情報が得られるような人や情報の交流センターとしての機能の獲得を目指す。</li><li>・地域内外の優れた生産者、製造業者と協働した講演会等関連イベントの企画・実施を行う。</li></ul>
実施主体	山梨県立美術館、キースヘリング美術館を中心に実施。 他2館についても実施を検討。
実施時期	R2～R6 年度
継続見込	継続見込：5年間 <ul style="list-style-type: none"><li>・本計画終了後も継続的に、新たな商品や、新たな地域の魅力を発信できるような体制を目指す。</li></ul> 予算見込： <ul style="list-style-type: none"><li>・各館予算、利用者からの収入、関連する企業からの協賛等外部資金</li></ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・新規グッズ開発</li><li>・取扱商品ラインナップの再検討・刷新</li><li>・地域の魅力に関連する商品の生産者の情報提供の検討・実施 (ショップ内でのコーナー、ポップなどディスプレイ、ウェブ、SNSでの実現)</li><li>・関連数体験イベント、講演会の開催。</li></ul>
関連目標	4-3-1, 5-1-①～⑥

(事業番号 3-③)

事業名	【美術館を中核とした文化・自然・食→well-being 体感イベント事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・美術館の所蔵する作品文化資源、地域の文化観光資源に関連させた、地域の文化・自然、食、well-being を総合的に体感できるイベントの開催。</li><li>・農産物や、工芸品のマルシェといったイベントを開催し、文観光拠点施設への興味関心を高めるとともに、地域の魅力を発見／再発見する機会を創出する。</li><li>・事業番号 1-④と連携し、美術館と周辺地域が一体となった賑わいを創出。新たな魅力の発信、受容層の新規開拓につながり、本プロジェクト自身が、新たな文化観光資源となることが期待される。</li></ul>
実施主体	文化観光拠点施設 4 館で実施を計画。
実施時期	R2 年度～R6 年度
継続見込	継続見込：5 年間 <ul style="list-style-type: none"><li>・本計画終了後も継続して文化観光推進事業者と協働し、来場者ニーズを捉え、収益性を高めることで、事業のインセンティブを高めていくことを目指す。</li></ul> 予算見込： <ul style="list-style-type: none"><li>・利用者からの収入、関連する企業からの協賛等外部資金</li></ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・イベントの開催</li><li>・広報物の作成</li></ul>
関連目標	4-3-2, 5-1-①～⑥

事業番号 3-④)

事業名	観光事業者との協働による美術館を活用した観光ツアーの開発
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光推進業者との連携強化を行い、文化観光拠点施設のプログラムが、「観光」という視点でツアー等提供経路に組み込まれるよう、協働のあり方を検討し、実現する。</li> <li>・事業番号 1-③で実現されたプログラムを、観光事業者と協働し、広く観光客に体験いただけるよう、ツアー等、提供経路の開発を行うことで入館者増を目指す。</li> <li>・美術鑑賞とともに山梨の自然と食文化を体感することで、心と体に活力を与えるという、well-being を体感できるプログラムを、山梨ならではの特徴ある観光スタイルとして定着させることを目指す。</li> <li>・また本事業では、新たに開発されたプログラムの指導者や、プログラムを実施するボランティア等、担い手となる人材の育成も視野に入れる。これにより、開発されたプログラムを実施する際の質の向上、実施回数の実現、実施場所の広範囲化を画策し、ニーズに対して十分にプログラムを行える体制を検討・確立することを目指す。</li> </ul>
実施主体	文化観光拠点施設 4 館と、やまなし観光推進機構を中心に実施。
実施時期	R2～R5 年度
継続見込	<p>継続見込：5 年間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業 1-③により開発したプログラムを、より広く提供できるよう、担い手の育成や、組織運営をおこなうことで、持続的な実施を目指す。</li> </ul> <p>予算見込：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各館の予算、利用者からの収入</li> </ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムを提供した観光ツアーの実現</li> <li>・観光業者との人的交流、情報交換、連携、協働</li> </ul>
関連目標	① 4-3-2, 5-1①～⑥

6-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業

(事業番号 4-①)

事業名	地域の魅力発信事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化観光拠点施設の文化資源、館のアイデンティティ、本計画での新たな取り組みについて、国内外からの来訪へと結びつけるため、広報事業をおこなう。</li> <li>・感染症拡大の社会情勢に鑑み、当面は地域内からの観光（マイクロツーリズム）、首都圏を中心とした近隣県からの来訪者増を目指し、広報活動を行う。</li> <li>・本地域計画で特に重点的に取り組む、中国からのインバウンド増を実現するため、中国を中心とした海外への情報発信や、それらの国内での広報活動について、時宜を見ながら実施する。</li> <li>・文化施設・地域の魅力を編集・発信する人材の確保</li> </ul>
実施主体	文化観光拠点施設 4 館と、山梨県を中心に、文化観光推進事業者と連携して実施。
実施時期	R2 年度～R6 年度
継続見込	<p>継続見込：5 年間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業では、一過性の広報となることなく、長期的なブランディングや、文化施設や地域の魅力を編集・発信する人材の確保など、継続的な活動を目指す。</li> </ul> <p>予算見込：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各館の予算、関係する補助金</li> </ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシ、ポスター、コミュニケーションペーパー等出版物の制作・頒布</li> <li>・ウェブ（HP、SNS）による広報コンテンツ制作・配信</li> <li>・中国を中心とした海外において、山梨県の文化観光の魅力をアピールする企画の実施。</li> </ul>
関連目標	4-3-4, 5-1-①～⑥

(事業番号 4-②)

事業名	【情報プラットフォーム整備事業】
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・文化観光拠点施設が収蔵する文化資源や、周辺の自然環境等、地域の文化資源の魅力を伝える情報拠点機能を担うものとして、改修を行い、再整備をおこなう。</li><li>・文化観光拠点施設の HP 再整備にあたっては、デザインや情報の更新について、長期にわたって更新が可能な予算的、人的体制を拠点施設で検討し、整えるものとする。</li><li>・また、文化観光拠点施設 HP の再整備の実現後、それ以外の地域の多様な文化資源の魅力を伝える情報を束ねた文化観光推進ポータルを整備し、地域内で文化観光を行うことを計画する旅行者の利便性を向上させる。</li><li>・これらについては、美術館を中核とした文化観光という視点で情報を編集し、利便性だけではなく、高度なデザイン性を備えた、美的体験を供するものを実現するものとする。ページのデザインや、取り扱う情報の選定・編集について、配慮するものとする。</li></ul>
実施主体	文化観光拠点施設 4 館と、山梨県を中心に、文化観光推進事業者と連携して実施。
実施時期	R2 年度～R6 年度
継続見込	継続見込：5 年間 <ul style="list-style-type: none"><li>・本事業では、プラットフォームの形成を目標とする。本計画終了後も、絶えずデザインや情報を更新し、継続的に運営する意義のある、生きたメディアを実現することを目指す。</li></ul> 予算見込： <ul style="list-style-type: none"><li>・各館の予算、関係する補助金</li></ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・各館 HP の見直し、改修の実現</li></ul> ＝SNS を活用した広報、イベントライブ配信、先端技術を活用したコンテンツの提供経路のデザイン・実現 <ul style="list-style-type: none"><li>・情報プラットフォームの実現</li></ul>
関連目標	4-3-4, 5-1-①～⑥

## 6-1-5. 1. ~4. の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

(事業番号5-①)

事業名	常設展示空間・設備整備事業
事業内容	・事業1-①、1-②の実施に関連して、展示空間・設備の整備を行う。
実施主体	山梨県立美術館、平山郁夫シルクロード美術館を中心に実施。(他2館でも実施を検討。)
実施時期	R3年度～R6年度
継続見込	継続見込：4年間 ・本計画終了後も、事業1-①、1-②の継続に合わせ、適宜必要な整備を行っていく。  予算見込： ・各館の予算、関係する補助金
アウトプット目標	・新たに開発したコンテンツに提供を考慮した展示空間の刷新
関連目標	4-3-1, 5-1-①～⑤

(事業番号5-②)

事業名	レストラン空間・設備整備事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業1-⑤と連動し、レストラン空間・設備の整備を行う。</li><li>・美術館や地域の特性や魅力を伝える機能を担えるレストランやカフェを実現するため、空間や設備の整備を行う。</li><li>・山梨の食文化を体感できるメニュー開発</li><li>・山梨の食材や食文化をサービスするための調理機器や設備の整備</li><li>・美術館の特性や地域計画のテーマを効果的に表現するレストランやカフェの空間作り</li></ul>
実施主体	山梨県立美術館を中心に実施。(他3館でも実施を検討。) ※1-⑤と連動。
実施時期	R3年度～R6年度
継続見込	継続見込：4年間 <ul style="list-style-type: none"><li>・本計画終了後の実施については、未定。</li><li>・事業1-⑤との連動により、必要な内容については適宜実施か。</li></ul> 予算見込： <ul style="list-style-type: none"><li>・各館の予算、関係する補助金</li></ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・レストラン調理設備の一部改修</li><li>・レストラン内装、ディスプレイの改修</li><li>・レストラン空間に含まれるエクステリアの改修。</li></ul>
関連目標	4-3-1, 5-1-①～④, ⑥

(事業番号5-③)

事業名	ショップ空間・設備整備事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業3-②と連動し、ショップ空間・設備の整備を行う。</li><li>・美術館や地域の特性や魅力を伝える機能を担えるミュージアムショップを実現するため、空間や設備の整備を行う。</li></ul>
実施主体	山梨県立美術館、キースヘリング美術館を中心に実施。 他2館についても実施を検討。 ※3-②と連動。
実施時期	R3年度～R6年度
継続見込	継続見込：4年間 <ul style="list-style-type: none"><li>・本計画終了後の実施については、未定。</li><li>・事業3-②との連動により、必要な内容については適宜実施を検討。</li></ul> 予算見込： <ul style="list-style-type: none"><li>・各館の予算、関係する補助金</li></ul>
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・商品陳列棚等什器の一部変更</li><li>・ショップ内装、ディスプレイの改修</li></ul>
関連目標	4-3-1, 5-1-①～④, ⑥

(事業番号 5-④)

事業名	周辺自然環境整備事業
事業内容	・1-⑥の事業と連動し、周辺自然環境の整備を行う。
実施主体	山梨県立美術館、平山郁夫シルクロード美術館を中心に実施を計画。他2館においても実施を検討。 ※1-⑥と連動。
実施時期	R3～R6 年度
継続見込	継続見込：4年間 ・本計画終了後の実施については、未定。 ・事業1-⑥との連動により、必要な内容については適宜実施。 ・「自然」に関する内容のため、災害や環境保全など、必要性に応じて検討。  予算見込： ・各館の予算、自治体の予算（要合意形成）、関係する補助金
アウトプット目標	・安全上、また美観上問題のある植栽、自然環境の整備
関連目標	4-3-1, 5-1-①～⑤

6-2. 特別の措置に関する事項

6-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条 ( 法の特例)
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

6-2-2. オブジェ等の設置に関する取組等

申請の名称	
申請の根拠法令・条項	
設置の目的	
設置期間	
設置場所	
オブジェ等の構造	
オブジェ等の工事実 施の方法 (※)	
工事期間 (※)	
復旧方法 (※)	

6-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	所要資金額		調達方法
		自己資金	その他	
令和2年度	72,956千円	24,407千円	48,549千円	文化芸術振興費補助金（文化クラスター推進事業）
令和3年度	75,000千円	25,000千円	50,000千円	文化芸術振興費補助金（文化クラスター推進事業）
令和4年度	75,000千円	25,000千円	50,000千円	文化芸術振興費補助金（文化クラスター推進事業）
令和5年度	75,000千円	25,000千円	50,000千円	文化芸術振興費補助金（文化クラスター推進事業）
令和6年度	75,000千円	25,000千円	50,000千円	文化芸術振興費補助金（文化クラスター推進事業）
合計	372,956千円	124,407千円	248,549千円	

7. 計画期間

令和2年度～令和6年度